

公益社団法人日本造園学会・関東支部 第9回学生デザインワークショップ

サマースタジオ2013

公益社団法人日本造園学会関東支部主催・同東北支部協力・石川町共催
後援：NPO法人ふくしま風景塾

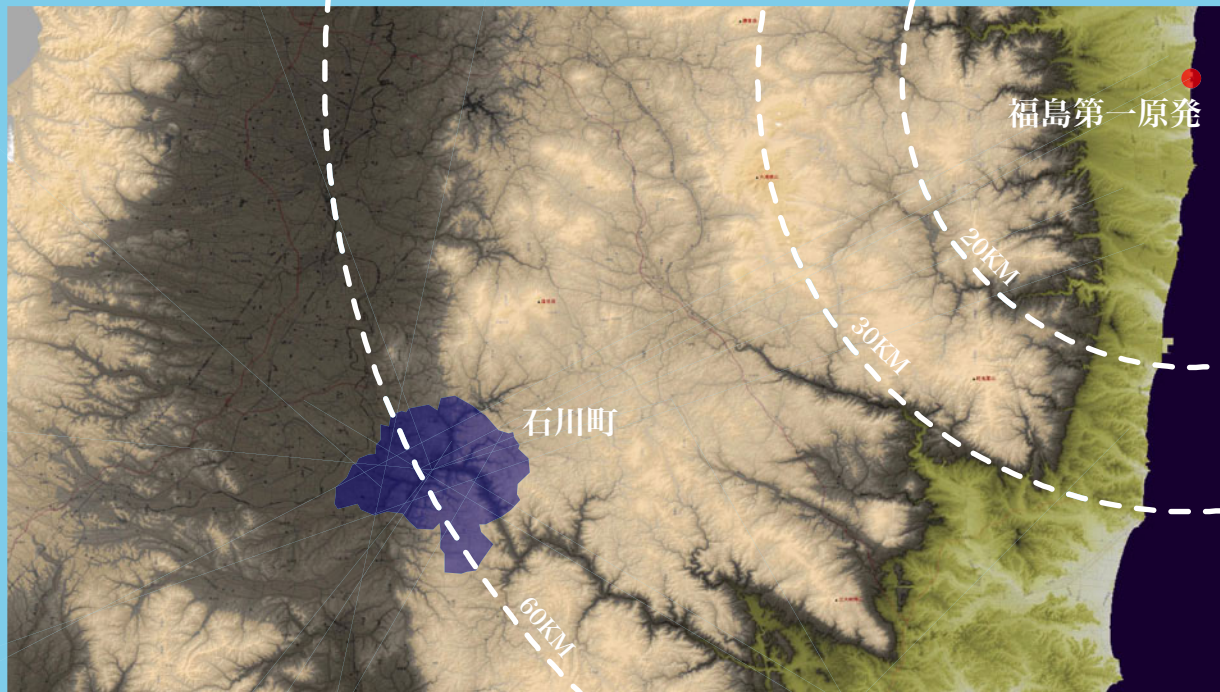
『原発の被害を受けた土地と向き合う』

東日本大震災における原発事故の最大の被害をうけた福島県では、いまだに今後の将来像を描けていない地域が多い。放射線量の程度にかかわらず、風評被害として全県で生活・産業に深刻な影響が続いている。福島の復興なくして東北の復興はないとも言われている。

度合いの異なる被害状況の中でも福島第一原発から60KM圏に位置する福島県石川郡石川町に注目する。石川町は原発事故の避難指示解除準備区域（20km圏）に近接しながらも放射線量の非常に低い自治体、いわゆる「クールスポット」ともいわれる地域の最前線に位置する。そのため、原発事故の被害を受けた土地の復興のための後方支援の拠点ともなる可能性は高い。一方で、原発事故から派生した風評被害の克服が地域に重くのしかかる課題ともなっている。また、原発事故がなくとも高齢化や過疎化が進行する地域でもあり、地域活性化のためのアイデアが求められている。

サマースタジオでは現地でのワークショップにおける地元関係者との対話や現地環境の視察を通じて、生活や生業などに関わる具体的な課題や活かすべき環境資産を見だし、解決のためのアイデアや土地・大地との繋がりの中で「再び人々が豊かに暮らすことのできる」福島の将来像について考えていく。

同テーマでのワークショップは2012年度から石川町で開催され、今年は2年目となる。2012年度（1年目）は、主に「風評被害克服」に重点おいた町と周辺地域も含んだ活性化のアイデアの検討をした。2年目となる2013年度では、「原発周辺地域から避難された人々が石川町で生業を営むことのできる土地の活用・再生案の検討」を行う。石川町と周辺地域との横のつながりに重点をおくものとなる。今年は3カ年連続したプログラムの2年目にあたり、昨年度に得られた知見や提案内容をベースに、更なる展開と深化を追求していきたい。



■参加者募集締め切り
7/26(金)

■対象地
福島県石川郡石川町
8/16(金) - 18(日) 現地ワークショップ

■詳細・問い合わせ
造園学会関東支部HP
(<http://www.kanto.jila-zouen.org/>)